

トークセッション

「キャッチ！稲沢の未来！～地方創生元年、子育てしやすいまちを目指して～」

—講師紹介—

(恩田)

よろしくお願ひいたします。軽快なトークを、と言われてしまいましたね。

(内田)

そうですね。僕結構たまにダジャレを言いますが、番組ではほとんどスルーされてしまってますね。

(恩田)

ちょっと分かりづらいことも多いんですよ。昨日か一昨日くらいに放送したファーマーズマーケットの特集の時には「大根だけに大混雑！」というのが文字でスーパーが入ってようやく分かったという状態で。

(内田)

先程も「この稲沢ならではのまちづくり」ということで何か良いネーミングはないかなと思って早速いま思いついたのがイナザワールド。

—会場内拍手—

予想外の拍手が。ありがとうございます。

(恩田)

分かりやすいですよ、イナザワールドは。今から言いますよと言っただけだと助かるのでよろしくお願ひします。それでは座らせていただいて、まず自己紹介を。

今「キャッチ！」という夕方の番組を担当しています。出身は東京の小平市ですが、中京テレビに就職して名古屋に移り住んできたんですね。こちらに平成2年に来たので25年になります。もうこちらで過ごす時間の方が長くなっているので、実際自分は名古屋人だと思っています。今度大学生になる女の子と中学3年生になる男の子、2人子どもがおります。ちょうど1人目を出産した18年前に「P.S.愛してる！」という番組で出産シーンを放送させていただきましたが、観たという方いらっしゃいますか。

—会場内挙手—

いらっしゃいますね。ありがとうございます。あの時は陣痛が夜中に始まったのですが、テレビで撮影するのは知っていたので、ちょっとお化粧ぐらいできるだろうと思っていたんですね。そうしたら痛くてお化粧どころではなくなって、本当にすっぴんで汗みどろの状態でも撮影されてしまって本当に後悔しています。次回はと思っているうちにさすがに今からは無いかという年齢になりました。そして内田さん。

(内田)

はい。僕は昭和43年生まれの猿年で年男です。実は恩田さんと同学年です。恩田さんの方が4か月くらい先輩ですけども。出身は稲沢よりも本当に田舎の青森県八戸市というところでそこに小中高といまして、大学1～2年はまさに恩田さんの実家の小平市にある一橋大学で河村たかし名古屋市長の後輩でした。大学院は名古屋大学で修士をいただいていましてエコノミストという肩書です。学歴詐称はとりあえず無いです。怪しいんじゃないかと皆さん警戒されていまして、軽快なトークなだけに。それで東京の野村證券にいて平成6年に異動でUFJ総研、こちらの方に移ってきたんですけども、そういう意味では東京のことも、もっと田舎の青森のことも分かっている、なおかつ実は今、稲沢の隣の一宮に住んでいまして、定期ではないのでJR使ったり名鉄使ったりばらばらなんですけれども、こちらの良い所も分かっていますので、今日は恩田さんとともに稲沢

のまちづくりに何か貢献できるようなトークが出来れば良いなと思ってまいりました。

[人口減少時代の到来]

(内田)

今「地方創生」「まち・ひと・しごと創生」に国でも地方でも頑張っているのですが、何故このタイミングでそれが重要なのかというお話から進めさせていただきます。

現在、人口は既に減り始めていまして、全国の半分近くの自治体が2010年時点よりも30年後の2040年に20代30代の若年女性が圧倒的に減ってしまいます。スライドに「②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」とありますが、そもそも子どもを産み育てる世代が、半分以下になる自治体が全国で半分あります。

今までは護送船団方式で全国画一的に自治体の運営もやっていました。けれども、競争力があって魅力が発信できる自治体に対してはどんどん国が予算を配分する一方で、魅力がなくて人がどんどん減ってしまうところは、「消滅可能性都市」という言葉を聞いたことがあると思うのですが、20代30代の若年女性が半分以下になってしまうところは消滅する可能性すらあるということで、競争してどんどん魅力のある自治体を増やしていこうという流れになっています。

人口が減っていくとどうなるかということ、スライドの「①東京一極集中」。若い人達は現状どんどん東京へ行っています。愛知県は社会増減でも増加していますし、自然増減でも子どもが増えているのですが、その愛知県全体でみても若い10代後半20代前半の世代は首都圏にかなりひっぱられていて、大学進学や就職する場もなかなか女性が働ける場が少ないということで一極集中が進んでしまっています。

さらにそれが加速してしまうのが2020年の東京オリンピックです。東京オリンピックまでに道路や公共施設、新国立の問題もありましたけれども、予算配分してインフラを整備しようという動きが2020年まで特に東京首都圏に集中しています。

今、首都圏というのは高速道路の一番外の圏央道というのがありますが、ほぼ全線今年度中に開通します。一番真ん中の首都高速の都心環状線は全線開通、真ん中の外環道だけが少し残っているのですが、今、お金も人も東京に集中しています。2020年その先2027年にリニア開業がありますけれども、この地方に限らず、稲沢に限らず自治体というのは、2020年までにひとまず競争率をあげておかないといけないという状況にあります。

(恩田)

国際社会で勝ち抜くためにも日本をどう立て直すかということで、それはせざるをえないことなんですよね。

(内田)

そうですね。国際的な競争率もつけないといけないし、日本国内の中でも東京にさらに集中する中で、地方の中ではある程度強いところだけが生き残っていくような、言ってみれば全国が「まち・ひと・しごと創生」をやっているということは弱肉強食の時代ですよね。ただ、今強い自治体が将来に渡ってもずっと強いかというとそうでもないと思います。

(恩田)

少し話が飛んでしまいましたが、長野県では、高血圧の方が多く、塩分を多く取りすぎていて平均寿命が短いということだったのが、長野県全体で取り組んでみんなで健康に長生きしようと集まって体操したりとか皆さんで食べ物の研究をしたりとかして、今すごく寿命が延びているそうですね。

(内田)

そうですね。管理栄養士の方もいて。私は青森出身なのですが、昔は青森も長野も短命県でして、りんごは医者いらずと言われていたんですけども、実は青森県はいま男女ともに日本一の短命県で長

野は男女ともに日本一の長寿県なんです。両方とも塩分の摂取量は多いのですが、圧倒的に違うのは、長野県の場合は野菜の摂取量が全国トップクラスです。管理栄養士の方も各家にちゃんと行って食生活を変えたりして、長野県は長寿県としてリタイアされた後に移り住む方もいます。

(恩田)

自然も豊かなので移り住んでのんびり過ごされる方も多くなっているんで、結局長野県のイメージも健康で長生きできる場所となり、じゃあ長野県に行こうという方も増えているそうですね。

(内田)

まずは全国の移住を促進するUターンJターンIターン。そのためにはまず知ってもらうキャッチコピーですね。稲沢と言ったら「はだか祭」でも良いのですが、若干男性的なイメージが強すぎますよね。

(恩田)

男性はお祭りで集まってくるかもしれませんが、お祭りの間に女性は何をしているんだろうとか、普段の生活の中で女性が住みやすいイメージというのは今どうしても無いと思うので、そこをどう変えていくかということがポイントかもしれませんね。

(内田)

やはり目立つということ、認識されるということは非常に重要で、各自治体がいま色々な情報を発信して認識してもらおうと考えています。さらにそのまちづくりの方向性というものが明確になっています、長野県であれば短命県から長寿県になっていますし。やはり稲沢でも特に若い女性が移り住んでくれるような、そういうまちづくりを進めていくということが必要なのかなと思います。

(恩田)

本当にマスコミを上手く利用してほしいなと思います。そうやって長野県が短命だったのが長く生きられるようになりまして、ということテレビでやるとイメージが付きやすくなりますよね。

はだか祭も毎年のように「キャッチ！」の中でも中継をしていますので、今年は土曜日だったので出来なかったのですが、毎年の中継をしていて「稲沢・国府宮・はだか祭」というのは全国的にも、この地方では特に有名なもので、そういうイメージ戦略というのはほとんどマスコミを利用していたら良いなと思います。

[稲沢市の人口について]

(恩田)

実際稲沢の人口がどのように変わっているかという表を見ていただきましょうか。これは国が調査したものらしいのですが、1970年からぐんぐん上がっていったところが2005年から少し減り始めて、将来的にはぐんぐん減ってってしまうのではないかという試算が出ていますね。

(内田)

そうですね。JR稲沢駅前は、結構高層マンションや新しく大型の商業施設なども建っていますから、人口は一見増えているような感じがするとは思いますが、やはり名古屋駅から近い割に宅地の供給量が少なく農地のままであったり、地価がずっと上がっている時代というのは、先祖代々の土地を守ることは非常に重要だったのですが、名古屋駅から近くに住みたくてもそのキャパシティが無いというのは、ネックになると思います。

先程の学生さんの発表にもありましたが、稲沢も市町村合併がありましたが、域内で駅前から周辺の郊外へ移動するときに手段がマイカーしかないとか。一宮の駅前もそうですが、郊外に住んでいる人が駅前の安い駐車場1日24時間でも500円とか600円とかそういうところに停めて、駅前が駅の空間と一部のその高層マンションとあとはもう駐車場しかない。そうになってしまうとまちづくりというのは立ち行かなくなりますから。

(恩田)

そこで止まってしまうということですよ。郊外に住んで車で乗り入れて、そこから電車に乗って移動するというのが一見便利だけれども、このままで発展しないとこれ以上人口も増えないしここに移り住む人も増えない、ということになってしまいますよね。

(内田)

駅前の方も名古屋駅との往復をするだけになってしまって、買い物をするにも名古屋市に行ってしまう。そういうことになりかねないので、稲沢もそうですけれども、いま全国で国交省が進めているまちづくりで「コンパクト&ネットワーク」という、まちをもっと駅前だとかそういうところにコンパクトにして、人が常時集まってくるような空間を作らないといけない。商業施設とか病院、公民館がどんどん郊外に行き、それが機能しているときには良いのですが、郊外も人が少なくなると高齢化してしまうと、商業施設というのは採算が合わないとすぐに撤退してしまいます。そうすると虫食い状態になってしまって駅前の中心市街地・商店街がシャッター商店街になってしまってもうどうしようもなくなってしまいます。そうなる前にまちづくりを進めないといけない。2020年東京オリンピックまでは本当に頑張らないとどんどん東京に集中してしまいますし、2020年までは稲沢はそんなにまだ人口減りませんし、財政的にも本当に大きな企業は何社かしか無いですけれども、まちづくりもお金が必要ですから、ひとまず当面のターゲットとなる目標年次は2020年なのかなと。あとは次の2027年のリニア開業に向けてという感じになると思いますね。

(恩田)

ということは一つの戦略としては名鉄国府宮やJR稲沢の駅前をとにかく活性化させるということがポイントになるわけですよ。

(内田)

そうですね。JR稲沢駅の東側だけはだいぶ開発がされていますけれども、元々の名鉄国府宮駅とか祖父江とか平和もありますし、ちょうどJRと名鉄の間なんかも含めて開発していかないと。ただ住宅があって駅前駐車場だけがあるという形だとなかなか厳しいのかなと。恩田さんも八事にあった中京テレビが、秋に笹島の方へ。

(恩田)

そうです。名古屋駅近くに11月に全面移転するんです。そうすると中京テレビは八事なので、日進・長久手・みよしに住んでいる人が多くて、車で通勤したり近くの地下鉄の駅まで行って移動したりしていた人が、今徐々に引越しをしています。

(内田)

それは賃貸の方ですか。

(恩田)

賃貸の方はもう早々と引越しをしていますし、持ち家の方も名駅近くというのは無理なので、少し離れた大曽根辺りへ引越しをしている人がいます。だから中京テレビも笹島ということは名古屋駅から歩いて15分くらいなので、稲沢も充分住むエリアに入るわけですよ。11分位で電車で来れるので。それで稲沢に住む場所があって土日にゆっくりと過ごせるような環境があれば、名古屋駅に出勤する人にとっては素晴らしい住宅になると思いますけれども、今ちょっと何うと住む土地があまり駅前に無いと。

(内田)

あと商業施設は郊外型の路面店がいくつかありまして、大型の商業施設が最近できましたが、休日に人がみんなそこに集まるという空間があるとすごく良いのかなと思います。それでやはり中京テレビの人の住む場所、長久手・日進・みよしとかあの辺の人口はずっと増えていて、あれは名古屋とトヨタグループの西三河に通う人達が車で通勤するので、ちょうど中間ということで定住人口

が増えていきます。やはり定住する時には自然だとか、長久手も図書館通りなんかすごく良い雰囲気ですし、そういう豊かさとかゆとりのある生活をしたいというニーズ、一方で名古屋とか栄とか都心部へのアクセスも良いという両方を求めますから、ポテンシャル的には稲沢も充分ありますよね。

[稲沢市の合計特殊出生率について]

(恩田)

それで実際に出生率を数字でまた見ていただこうかと思いますが、出生率も稲沢は愛知県の中でどのくらいかといいますと、48位。皆さんご存知でしたか？この数は子どもを産んでから引っ越してきたという方が入っていなかったり、里帰り出産で産んだだけという方も入っていないのかな。数字の出し方は詳しく示していないのですが、大枠でいうとやっぱりみよし市とかは数字が高いですよ。

(内田)

そうですね。これは女性が一生涯に産む子どもさんの数ですけども、やっぱり上位にある大治町は元々すごく子育て支援が手厚い自治体ですし、みよし市はさっき言ったように豊田とか名古屋にも通勤圏ですし、東海・高浜・知立、この辺はトヨタグループに限らず大企業があるところですよ。やっぱり税収があればそれだけ子育て支援にも財源を配分できます。ちなみに県内54市町村あって、先程言った「消滅可能性都市」という20代30代の女性が2010年から2040年までの間に半分以下になるという都市の数というのは、実は7市町村なんです。それは奥三河の方が多いですし、この出生率でみたらもう稲沢って下から7番目ですよ。「消滅可能性都市」とは全くリンクはしてなくても稲沢で子どもが増えないということは、一部転勤族で若いうちにきて結婚したら名古屋へ行ってしまうとか、名古屋で子どもを産んでからこっちに移り住むとか、そういう人もいるでしょうけれども、それにしてもこんなに低いのかなど。名古屋駅から10数分なのにちょっと意外な感じですよ。

(恩田)

ちょっと不思議な感じがしますよね。実際本当に平らな土地なので自転車でも暮らすのに楽ですし、津波もさすがにここまでは来ないので、大きな地震の時にも液状化は若干心配が残っているものの、津波の被害が無い、名駅まで11分で電車で行けるということは、本当に住むのには好条件のはずなのに、じゃあ何が足りないのかなって思います。

今回数字には出していないですが、1人お子さんを産むご家庭はままあって、晩婚化でもない、決して結婚しない人が多いという訳でもないそうなんです。1人産んだ後に2人目3人目を続けて産むというところがどうも留まっているらしいんですね。一つの家庭で2人3人お子さんが生まれていればどんどん出生率も増えていくし、子どもも増えていくと思うんですけども、1人でやめておこうかという風に思う理由は何なのかということですよ。

[稲沢市の産業別従業者数の構成]

(内田)

それと関係あるかどうかは分かりませんが、愛知県西三河の方も結構大手メーカーがありますが、この稲沢の産業構造を見ても製造業が多いですよ。もちろん農産物とか植木とかそういうものも盛んではありますし、銀杏とかそういうものもありますけれども。従業員数でみると一番多いのが化学、非鉄金属、飲料・飼料メーカー、繊維、木材と、産業構造全体の中でも製造業が一番多いですね。製造業というのは、男性の雇用者数・採用者数が多くて、西三河でも若年男性・大卒位の20代前半の男性は流入人口がかなり多くて流入超過で、女性が少ないですよ。トヨタの人は給料が良いから引く手あまたかもしれませんが、人口が増えていても男女間の人口バランスが

悪いと当然そこでマッチングしたとしても、なかなか人口は増えにくい。そういう意味では稲沢も産業構造を変えることは、市長も市役所の方も言うでしょうけれども難しいんですよ。サービス産業とか女性の方が働ける、そういう企業に来てくれと言って来てくれれば本当に簡単なんですけど、他の自治体も当然財政的に補助金を出したりとか色々なことをやっていますから。

あとは高速道路が出来てインターが近いとか人件費が安いとか色々ありますけれども、やっぱり名古屋から近いですから中山間地域に比べれば高いでしょうし、そういう産業構造を変えるよりは、女性が定住しようと思ってくれるようなまちづくりの方が良いのかなと思います。

(恩田)

昔の家族構成でいうと、例えば、男の人は仕事があります、女性が専業主婦で家の中を守りますという構造があったので、女性の仕事というのはそんなに考えなくても良かったのかもしれないですけど、今は学校を出た後、高校・大学を出ましたという時に女性も就職しますよね。就職して仕事を持った時にそこで仕事をしながら出産したりということを考えた時に、そこでポンとなかなか専業主婦になれなかったり、結婚相手と上手くマッチングできなかったりすると、仕事もして子育てもしてそこに長く住んでいたいという風に流れがいかないものですよ。ということは先程もあったように、男性の仕事がある、女性の仕事もある、できれば今稲沢に住んでいらっしゃる息子さん娘さんがこっちに来て住んでくれると、子育ても孫の世話も出来て良いですよ。三世代で一緒に住んだりとか近くに住んで世話したりというのが一番ありがたい構図ですよ。

[稲沢市のポテンシャルについて]

(内田)

あと冒頭にも言いましたけれども、まちのイメージもね。女性って男性に比べると感覚的なところもおそらくあって、まちのイメージとか治安とか。東洋経済が「まちの住み良さランキング」というものを毎年やっていますが、全国の市町村の中で長久手は2位なんですよ。

(恩田)

それはどういう理由で。

(内田)

長久手は新しいまちというか図書館通りとか新興住宅街で結構若い人がいるので、保育所があったりとかまち全体が女性とか子どもにやさしいまちになっていると思います。比較的税収も安定しているので色々ところに公共施設も新しく出来たりしています。あとはまちのイメージが非常に重要で、東京でいうと川崎は工場もありますし男性のまちというイメージがありますが、横浜は結構イメージが良くて、表参道・自由が丘・吉祥寺も凄く住みやすいまちで、若い女性も好きですけども学生もたくさんいたりします。そういう意味では名古屋駅から11~12分で、先程学生さんはベッドタウンとしては売り込みたくないと言っていましたけれども、僕はベッドタウンでもものすごくイメージが良い。東京で言う横浜とか西の方のイメージだと思います。

愛知県は首都圏と東西が逆で、東京は東に行けば行くほど下町があって、西の方が洗練された新しいまちというイメージがありますが、愛知県は逆の感じですよ。トヨタの人もどんどん東の方へ、最近では東山沿線とか刈谷とか安城に住んでいますけど、そのイメージを覆すような、本当に名駅から西へ10数分。僕も疲れた時には一宮ですらたまに寝過ごして岐阜まで行ってしまったりしていますけれども。

(恩田)

あっという間ということですよ。だって考えてみたら名古屋駅から東山公園とか本山に行くのも13分くらいかかりますからそんな感覚ですよ。だったら名駅中心に考えたなら一緒のはずなのに。

(内田)

そうですね。本当に11月に笹島に中京テレビが移転してきたら、数年後その辺に恩田さんが歩いていても不思議ではないですよ。

(恩田)

そうですね。そのためには移り住めるためのマンションだったり家であったり、あとは駅前が明るくて女性が夜歩いても怖くない治安の維持であったり、ちょっとしたショッピングが出来たり、夜遅くまで開いているスーパーがあったり、色々ありますね。例えば20代女性のOLさんが名古屋で仕事をしているけれども、土日はゆっくり稲沢で過ごしたいとか、そういうまちづくりが必要になってくるわけですよ。

[子育てについて]

(内田)

あと実際に子どもが生まれると、愛知県は二世帯とか三世帯同居とか近くに住んでいるようなケースも多くて、親御さんとかおじいちゃん・おばあちゃんなんか世話をしてくれるということもあると思います。それから若い人同士、ママ友が近くにいないと。

(恩田)

ママ友は重要ですよ。私も実家が東京で主人の実家が名古屋なので、お姑さんにも本当にお世話になったのですが、それ以外でもママ友の助けが非常にあって、遠くの親戚よりも近くの他人という位に近くの友が大切です。

仕事をしているとどうしても遅くなりますよね。10年前位だったと思うのですが、国府宮はだか祭の中継を担当させていただいて、雪がちらつく寒い日で本当は17時位に中継が終わって帰れる予定だったのですが、その後も気になるから19時の放送が終わるまでにもう一度中継を入れさせてくれという事で、急遽一回分中継が増えたんです。本当なら保育園も学童保育もお迎えが間に合うはずだったのが、急遽間に合わなくなって、すぐに電話をして学童保育の方に「すみません。お迎えが間に合わないで誰でも良いのでうちの子誰か連れて帰って下さい」とお願いしました。保育園の方にも連絡して「すみません。誰でも良いので」と。両方をお願いしたら後から連絡が来まして、同じマンションの同じ保育園の人が夕御飯まで食べさせてくれて待っていてくれて。学童保育の方もそこからすぐ近くのおうちで、やっぱり同じように御飯を食べさせてお風呂まで入れてくれていて助かりました。

結局そういうことがちょくちょくあるんですよ。自分の具合が悪くなって病院に行かないといけない時にお迎えに行けないので、ママ友に頼んで子どもを20時くらいまでみてもらえないかなとお願いしたら快く面倒をみてくれて、私は点滴を打った後に子どもを迎えに行くという状態だったことがありました。

(内田)

まあ恩田さんに誰でも良いつて言われてね、やらざるを得ない状況もあったと思いますけれども。

やっぱりママ友のネットワークは重要ですし、そういうことをきっかけに広がっていくこともあるでしょうし。先程の学生さんからも出会いがLINEなどで出来ると良いという話もありましたけれども、今だったらママ友のLINEネットワークなんかもあると思いますよね。

(恩田)

強力ですよ。近くで助けてくれる人がいないとどうしても子育ては難しいので、例えば自分がこんな子育てをしたいなと思える見本が傍にいと良いですよ。自分の子どもの年齢よりも1つ2つ上ぐらいの人が「こういうしつけをしているよ」とか「こういう叱り方が良いよ」とか、そういうアドバイスがもらえたりします。あと同年代の人で愚痴を言ったり悩みを話したり「パパに協

力してもらうにはこういう声掛けが良いよ」とか。「何でやってくれないの」と言うをやってくれないですね。お風呂掃除も「ごめんね。ちょっと忙しいからやってくれるかなあ」って言って、やった後に「こんなに隅々までありがとう！」ってとりあえず三倍か四倍くらいのお礼の言葉を色々考えて「あなたって器用なのね」とか「こんなに気が利いて本当に助かったわ」って言うと、次もやってくれるっていうのをママ友同士で話をして「こうやって言うと良いわよ」って。

あと強制的に自分が出かけなくてはいけなくて、お父さんと子どもが二人きりになったときに、子どもさんが小学生位なら「二人でカレーライス作ってみたらどうかな」とか言って材料を置いておいて、お父さんとお子さんで一緒にカレーを作るシチュエーションを作っておくとか。そうすると協力体制のなかで仲良くなるし、帰って来た時に自分も楽になるし、「美味しい！パパ作ってくれたの？助かる！」って言うとまた次に繋がると。こういう情報の交換の場所にもなるのでママ友は大事ですね。

(内田)

それは良いですね。特にここは近くにオリエンタルカレーもありますし、ココイチも一宮でそれほど遠くないですからね。廃棄カフは使わないでいただきたいですけども。

[稲沢市の子育て支援制度]

(内田)

稲沢にも子育て支援の制度は結構あるんですよ。

(恩田)

そうなんです。今どんどん増えていて3人目のお子さんの保育料や授業料が無料化するとか、ママベビーサポート事業とか。名古屋では「のびのびサポート」というシステムがあって一時間800円位で面倒をみてもらえるシステムがありますね。普通ベビーシッターさんってプロの方に頼むので一時間1500円位するんですよ。「のびのびサポート」はこれも一緒だと思いますけれども、講習を受けた何の資格も無いお母さん達がちょっと時間も余っているからみても良いですよということで、比較的安くみてももらえるんですね。例えば保育園と家の送迎を手伝ってくれたり、その方の家に二時間くらい預かってもらって夕御飯食べさせてくれたり。これが本当にマッチングすると家族ぐるみで仲良くなって助けてもらえるということで、これがどんどん普及してくるといいなと思いますね。

(内田)

迎えに行くのが遅れると延び延びになっちゃってね。

(恩田)

きましたよ、皆さん。ダジャレで。「のびのびサポート」ということで。でも責任を持ってやってくたさるのでそこでまた色々アドバイスももらえますし。

私の友人のご家庭で、奥様がお病気で急死されてしまってお父さんと4歳位のお子さんと二人の生活になってしまった方がいるのですが、やはりお父さんはそこまで仕事は休めないの、夕御飯を作ってくれる人がいないかという募集を先日したんですね。やはり知り合いで子どもの面倒をみながら夕御飯も作ってくれるという人はなかなかいないので、じゃあ「のびのびサポート」に聞いてみたらと声掛けを促したんですけど。何人か所属しているので、ちょうど合う人とか近くの人をマッチングしてくれるので、少し時間の空いている人が協力することによって自分の楽しみにもなりますし、若い世代の方にもすごく助かる要因にもなるので、稲沢でもこのママベビーサポート事業がどんどん広がっていくと良いですね。

(内田)

最近若い人達のシェアハウスもありますけど、そういうシングルファザー・シングルマザーの

方々にもそういうものがあつたら良いですよ。

(恩田)

そうですね。一軒くらいに5家庭くらいが一緒に住んで協力し合えると本当に助かると思いますし、家賃の問題でも安くなれば助かりますし。

[稲沢ならではのまちづくり]

(内田)

稲沢っていうのは僕のイメージでは、はだか祭が強烈にあります。おじさんのお尻とか脳裏に焼き付きますよね。

(恩田)

あとはイチョウですかね。はだかとイチョウ。祖父江の銀杏は有名ですよ。

(内田)

銀杏は食べるのは好きなんですけど匂いがちょっと苦手。でも質実剛健な昔からの神事を大事にする、そういう伝統的な良い面はありますけれども、逆に言うと男性中心という所も、もしかしたらあるのかなど。住んだことが無いので分かりませんが。

(恩田)

はだか祭について、先程学生さんが「稲沢に生まれ育って一度も行ったことがない」って話していましたが、はだか祭の時に女性のイベントも同時に催したり、男性だけではなく女性も参加できるものが何かあると良いと思います。裸でもみ合っている横で女性が暖かい場所で何か楽しく過ごせるようなイベントがあると良いなど。

(内田)

そうですね。上の方だとお婆さんは見ていたりしますが、あまり若い女性はいらっしゃらない。

(恩田)

多分ご家族は息子さんや旦那さんが参加される場合には、心配だし見に来ていらっしゃると思いますけれども。なかなか若い女性が男性のもみ合うところを間近で見ようというのものはしたないので、見たくても見られないということもあるかもしれない。

(内田)

僕は青森出身ですけど場所がちょっと離れていて、実はねぶた祭りに行ったことがないんですよ。八戸には三社大祭という別のお祭りとか「えんぶり」という農業のお祭りもあるんですけど。

(恩田)

せんべい汁まつりとかは無いんですか。

(内田)

B-1グランプリは八戸から発祥したB級グルメのお祭りですけど、実はせんべい汁も名古屋で初めて食べたというか。今、総合計画策定のために青森県へ行くんですけど、地元で昔住んでいても良さが分からなくて、東京から何かのきっかけで移り住んでいる人達が、青森の良さを発見して情報発信してくれたり、あとは地域商社的に地域の色々な特産品をまとめて東京・関西・名古屋でPRして売ってくれたりということがあります。外から来た人の客観的で第三者的な目もまちづくりには活用できるのかなという気がしますよね。本当に稲沢はイチョウもすごくきれいですし、植木も凄い。最近和風の庭は減っているかもしれませんが、洋風庭園みたいな感じのものもありますし。

(恩田)

また海外の方に来てもらえるような誘致の仕方もありますよね。植木まつりやはだか祭に外国人が来てくれるようなツアーを組んだりとか。

(内田)

そうですね。今むしろ海外でクールジャパン戦略というものがあまして、当面オリンピックまでを想定しているんでしょうけれども。クールジャパンというのは「カッコいい日本」ということで日本を海外に売り込んで、海外で日本庭園が人気になって、池を作ってそこに新潟の何十万何百万の鯉がいるとか。植木まつりに欧米の人が来て高価なものを買って行ってくれるとか、日本人って欧米のものに結構憧れありますよね。そういう意味では欧米でブームになった日本の文化を逆輸入してくると、逆に日本でブームになったりすると思います。

青森でも僕が子どもの頃、東京からロッテリアがきて、ハンバーガーを買うために並びましたもん。

(恩田)

どのくらい並んだんですか。

(内田)

まあ二時間位ですけど。マスコミが盛り上げてしまうので何か並んでしまって、今考えるとハンバーガーに二時間はね。

(恩田)

でも三重県尾鷲市にマクドナルドができたときにも皆さん二時間待ち位だったらしいですね。そういう話題にはなりますよね。

(内田)

東京とか海外、特に欧米でブームになったものを逆輸入してくると、産業としても幅が広がる可能性がありますから。青森とか北海道って茶碗蒸しに銀杏の代わりに栗を入れるんですよ。僕は甘くなってあんまり好きではないですけど、うちの母親が入れるので銀杏にしてくれと子どもの頃言っていました。本当に稲沢の色んなものを発信してほしいですね。

(恩田)

アイデア次第ですよ。稲沢って荻須高德さんの記念美術館がありますよね。実は中京テレビの報道部で働いている荻須さんという女性記者がいて、その子のおじいさんといところらしいです。ちょっと遠いんですけど親戚で、荻須画伯の孫娘って言えたら一番良かったんですけど、いとこの孫娘がいま中京テレビの報道で働いていて。こうやって荻須記念美術館もあるので、たとえば荻須さんはパリの絵をたくさん書いているので、駅前を少しパリの雰囲気にするとかね。街灯もパリっぽい感じにするとか、例えば市で少しお金を出すから外壁の塗装をパリっぽく塗りなおすとか、新しいお店を出す時にレンガ造りのパリっぽいお店を出すところには支援金を出すとか。

(内田)

やっぱり先端のまちづくりをしているところはそういう先鋭的な、例えば京都とか皆さんになじみが深い伊勢のおかげ横丁のあるおはらい町通り、あそこも景観条例がものすごく厳しくて。郵便局でも銀行の支店でも後から作る建物も全部同じような造りですよ。パリは良いですよ。

(恩田)

良いんじゃないですか。あとパリで一番売れているパン屋さんを誘致するとか。いまパンを買いに皆さん全国色々まわっていて、パン屋ブームですよ。パンは冷凍できるから美味しいままずっと食べられるんですって。だからパン好きの人が稲沢に集まってきてパンフェスティバルをするとか。で、パリの雰囲気。

(内田)

で、なんかおしゃれしてこうイナジェンヌみたいな。

(恩田)

イナジェンヌ。それ別にダジャレじゃないですよ。

(内田)

ダジャレじゃないですよ。さっきのイナザワールドは微妙でしたけど。そういうちょっと変わったことをするという、昨年か一昨年に滋賀県が近江県や琵琶湖県にするとって住民投票やりましたよね。あれね、絶対変える気は無かったと思うんですよ。

(恩田)

無いけど宣伝のために。

(内田)

そう。当然そういう変わったことをやると、ヤフーネットニュースでも地域ニュースでトップにきますし、あの辺が近江商人ならでは、伊勢商人・近江商人・堺とかもありますけど、やはり商人のまちは観光客が集まるとなったら、赤福のあるおかげ横丁とおはらい町通りとかあれだけのことをやるんですよ。それでお客さんが集まれば税収も入るし、またまちづくりにお金を循環させることができます。そういう意味で保守的にやっているよりも、実は京都・伊勢とかそういうところはまちづくりでは革新的な、逆に言うと全然保守性が無いまち。だから稲沢がいきなりパリになっても、もうみんな「やっぱり」みたいなね。

(恩田)

「やっぱり」。それを言いたくていま言いましたね。でも不自然ではないですよ。

(内田)

そういう訳ではないですけど、いま恩田さんがパリっておっしゃったのでね、非常にダジャレを作りやすくありがたかったです。

いま僕は清須市のまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の座長をやっているんですけど、名古屋から10数分で来られるっていうロケーションは圧倒的に有利ですよ。いま消滅可能性都市に入っているほとんどのまちというのは、例えば紀伊半島の半島先端部だとか奥三河・東北・北海道だとか、首都圏とか海外からの距離感・時間距離がものすごく遠いところなんですよ。まだ空港が近くにあるってLCCでいきなり中国からガサッと行ってこられるような、あと港があって九州みたいに大型の豪華客船を呼び込めるようなところは良いですけど。時間距離が遠いのはストロー現象っていう「ストローで東京に吸われる」というリスクを指摘する人もいますけど、むしろもう吸い取られるものがないという地方ばかりですから、首都圏とか海外と直接短時間でつながっていないとほぼノーチャンスだと思います。

そういう意味では2027年にリニアで名古屋から品川が40分、乗り換えて10数分だったら、もう稲沢で一時間以内ですよ。

(恩田)

そうですね。だから通勤も可能ですよね。名古屋どころか東京まで通勤できるくらいですよ。

(内田)

お金があればね。通勤定期が出れば通えますし。あと中部国際空港駅から国府宮駅も岐阜行きで直通で、どこまで行っても特急料金360円ですから。

(恩田)

だったら稲沢に住んでいながら飛行機通勤もできるかもしれないですよ。

(内田)

まあそうですね。お金があれば。でも本当にここは恵まれているので。全世代の男女の中で田舎暮らしとか田園回帰というものに一番興味があるのは、10代後半20代前半の若い男性なんですよ。ただ田舎暮らし、田園回帰というのは農業をやったりとか本当に田舎の古民家でゆったりと過ごしたいという感じで、一宮・稲沢・清須とか中途半端に都市機能があったりするところのイメージじゃない可能性はあります。

(恩田)

でもそういう方達は田舎暮らしをして農業ではない、となると。

(内田)

いえ、農業の可能性も高いです。あとはIT関連というのは場所がどこでも関係無いです。ただ逆に10代後半20代前半の若い女性は、全世代の中で田舎暮らしに興味が一番少ないんですよ。若い女性は大都市圏・都市機能の近くにいないとどうも落ち着かないのか、あとはリタイアされた60代の男女なんかはそれなりに関心があるんですけども、若い世代の男女間のギャップというか。

(恩田)

困りますね。若い男性は田舎に住みたがり、若い女性は都会に住みたがる。そのマッチングをしないといけないですよ。

(内田)

でもこの場所というのはポジション的に、ロケーション的に両方を満たす可能性はありますし、後は女性が好むようなパリの様な。でも荻須さんが中京テレビにいるなら中京テレビとタイアップすればね、「キャッチ！」では情報発信を毎日やってくれる可能性もありますよね。

(恩田)

でも正直な話、マスコミを利用してくださいとさっき申しましたけれども、例えば「うどん県」とか「どこどこが変わります。稲沢！新稲沢！」とか、CMを作ろうと思うとCMを作るお金もかかりますし、スポット代と言いましてCMってお高いんですよ。色々な企業の方からお金をいただいてやっていますけれども、それよりは新しい話題で「実はこんな有名なお店ができますよ」とか「稲沢にこんな新しいスポットができますよ」というのを少し教えてもらえればこちらはタダで取材するんですね。で、「キャッチ！」の中でも「ありがとうございます。良いネタもらえました。視聴率も良かったです。」っていうとタダで宣伝ができて、こちらもそれこそ視聴率が上がってくれたらありがたいので、そういう風に利用してもらえると良いですよ。

(内田)

最初は営業かと思いましたが、ちゃんとした提案でしたね。無料でできるという。

(恩田)

本当にね。お金をいただけるのが一番ありがたいんですけど、稲沢市長に言って「稲沢市！変わります！」バーンってCMを作ってもらった方がお金にはなりますけど。でも実際そういうアイデアを具体的にしていくと「あ、ちょっと稲沢これから住みやすいまちだぞ」「遊びに行ってみいな」「学生が元々多いんじゃないか」という風に関心を持ってもらえますもんね。

(内田)

安城だって日本のデンマークって言って、デンパークっていうのがあるくらいです。名古屋港のイタリア村はさすがに無理があつてなくなりましたけど。でも荻須さんがね、幸か不幸か稲沢の街並みじゃなくてパリの街並みを描いていたという、ご本人の思いは分かりませんが、それが何十年か経ってパリの街並みが駅前にあつて、女性が来るようになって、でも一方でそういうはだか祭のような強い男性もいるとかね。良いところ取りをしたら本当に良いなっていうね。ざわつきますよね。いいな、いなざわ、ざわざわ。

(恩田)

それいいんじゃないですか。「いいなー、ざわざわざわ」。キャッチフレーズに使っていただけるかもしれません。「いいなー、ざわざわ。いなざわ」。

(内田)

今日ここで言ったものはもう自由に使ってくださいね。使わないと思いますけど。ぜひ一つパ

リ化を。先程の学生さん達の提案の方が良かったような気がしますけれども。

でも色々な意見が若い人達からも出てきて、シニア層まで含めて色々な人達が議論する、そういう場ができていくだけでも、まちはどんどん良い方向に変わると思います。あとは良いまちになっても定住人口が増えないと昼間人口、昼間だけ学生さんとか工場で働く人だけが来て、みんな一宮とか清須に帰って行ってしまふのでは意味が無いですからね。清須は僕も委員やっているので清須は良いとしても名古屋に帰ってしまうとかね。そういう意味では交流人口も増やしつつ、その中から定住して特に女性が増えてうまくマッチングして、最終的には出生率も上がっていくような、そういうパリの街ができると良いですよ。

(恩田)

やっぱり人が集まるところに人が集まってくるので、一つポイントは駅前の開発を進めていかないといけないということと、あと女性が住みたいと思わせるようなポイントが増えていくと良いですよ。

(内田)

そうですね。女性が来ると産業構造も後から変わると言うんですよ。そこはニワトリと卵の関係ではないですけど両方なんでしょうけれども。どちらかという若い人や女性が増えてきて、そういう人達がいるとIT関連・サービス業・観光・食事といった企業、大学とかにも栄養管理学とか映像とか、やっぱりそういう素地はありますから。先に若い女性や若者が集まるような、住んでくれるようなまちづくりをしていった方が良いのかなと思います。そのためにはある意味、イメチェンをしなくてはいけないところもあるのかなという気がしますね。

(恩田)

せっかく今回大学と繋がったので、例えば学祭を学生だけじゃなくてどこか公園も利用したりすると広がるんじゃないですかね。学生さんも稲沢のことをあまり知らないで通っている人も多いと思うので、会場を広げましょう、ここの公園を使ってやりましょうとか。そういうことを少しずつやっていくと「あ、稲沢に住んでみたいな」ってそのまま就職するということもありますし。

(内田)

そうですね。一宮はモーニング発祥の地、一宮・岐阜・尾西とか昔から紡績工場とかがあって、夜勤の方が朝喫茶店に行って、そのまま食事するという感じだと思うんですけど。やっぱり稲沢も荻須さんを輩出されていますし、色々なきっかけになるようなこともありますし、ポテンシャルはものすごくあると思います。

あと訪日客も、国内の人口は減っていったその中での取り合いになりますから、観光客・交流人口は増やす必要があるんですけど、特に欧米人ね。本当に和風庭園ブームですから。特にヨーロッパなんかはフランスとか。フランスは結構親日というか日本びいきの方がいて和風庭園のデザインとか剪定をされる方もフランス・ドイツにたくさんいますから。そういう方達が日本の植木の聖地である稲沢に来て色々買って帰るとか。

(恩田)

SNSで発信してもらえると宣伝になり、また来てもらえるようになりますからね。

(内田)

色々な地域資源のコンテンツはたくさんありますから、後はやっぱりやる気と活かし方。でもさっきのような若い学生がいるので大丈夫だと思います。

(恩田)

今日は発表を聞かせていただいて頼もしいなと思いました。本当に学生の期間だけで終わらずに、これから稲沢のために貢献してくれると良いですよ。私達もせっかく繋がったので、稲沢の皆さんと一緒にこれからは発展の尾翼となると良いですね。

(内田)

僕もすぐ隣の駅なので。はい。

(恩田)

ということであつという間に時間が。でも本当に皆さん私達が話している事にすごくうなずいてくださって、稀にみる話しやすい会場だなと思います。一つ一つうなずいてくださって本当にありがとうございます。ダジャレはちゃんと言い切りましたか。

(内田)

僕はそういうキャラではないので。中京テレビに行ったときに「今日もダジャレが出るでしょうか」とか勝手に最初に入ってるんですよ。それを聞いてから、何か言わなきゃいけないのかなっていうプレッシャーで無理やり言わされている感じはあるんですけども。

(恩田)

スタッフの見解は違いますね。スタッフからは「内田さん多分言うから聞き逃さないようにお願いね」って言われています。まあ真相はともかく。これからも仲良くよろしくお願いします。

(内田)

はい。それではそろそろ時間ということで。

(恩田)

本当に取りとめのない話で。参考にさせていただきますでしょうか。ありがとうございました。

(内田)

ありがとうございました。